

平成 29 年度 学校評価報告書（実施結果）

1 年間 の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者 評 価	総 合 評 価			
	具体的な方 策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等		
教育課程・学習指導 ①思考力・判断・表現力の向上を目指し、学校としての質保証と「主体的・対話的で深い学び」の研究推進を図る。	①-1 生徒による授業評価アンケート4項目の数値を指標とし、各教科「おおむね満足」を80%以上とするように目指す。 ①-2 共通テスト実施状況を全教科80%以上とする。	①-1 授業評価アンケート結果（個人・教科）の満足度が向上したか。 ①-1 研修会の改善があるか。 ①-2 試験実施共通化調査を実施。	①-1 75 科目中 21 科目が 80% 未達。 ①-1 本校・他校職員の授業見学型の研修内容改善することで、方策を共有することができた。 ①-2 共通テスト 80%以上達成状況前期中間 26 科目/28 科目 前期期末 28 科目/32 科目 後期中間 25 科目/28 科目	①-1 「主体的・対話的で深い学び」の研究意識は高まったが、組織的研究体制や主体的で対話的な授業の評価方法等の研究を推進する必要がある。 ①-2 社会 2 科目理科 1 科目が通年で達成できなかった。授業研究や校務削減に結び付けるよう共通化を継続する。	①-2 共通テストの実施にあたっては校務削減の視点とともに実施後にテスト内容について各教科で検討会を実施し、授業改善に資する機会を設けると更に良い。 ②学校説明会以外での生徒の表現活動の状況をまとめ、生徒の感想や変容等を振り返らせる指導が必要。	①授業評価の活用や、共通テストの割合で目標を数値化させたことにより、意識改革につながった。また、「主体的・対話的で深い学び」の研究推進も改善されたが、個々の取り組みになりがちなので組織的研究が必要。	①教科研究主任を配置、教科研究会を設定し、組織的な研究を進め、教材の共有、校内研修設定により、校務削減にもつなげたい。 ②生徒が学校の特色を語ることで、所属意識や自己の役割を認識させ、表現力を高めることができた。行事での取り組みだけでなく、生徒自身が活動を振り返り、自らの表現や主体的行動につなげる指導体制が課題である。	②部活動主体の表現力・判断力向上のための取り組みを行う。 ②行事や学校説明会における生徒の表現活動の推進を図る。 ②生徒が行事参加する表現活動の回数。 ②第 1 回学校説明会、生徒会本部役員 2 名、3 部活 15 名、第 3 回学校説明会生徒会本部役員 2 名、3 部活 48 名が参加した。 ②生徒同士のインタビューでの参加がおおむね好評であった。参加形態をさらに検討する。	②教科指導のみならず、特別活動における自己の振り返り、変容を認識させる指導計画の策定。

1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	総合評価	
	具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
生徒指導・支援 ①部活動の活動成果の充実を図る。 ②-1 規範意識と判断力の向上を図る。 ②-2 組織的に安全・遅刻・頭髪・制服着用指導を実施。 ③教育相談体制の充実を図る。	①-1 部活動の情報発信を行う。 ①-2 部活動加入率70%以上を目指す。 ②-1 指導方針の周知を徹底する。 ②-2 下校時間遵守など規律の中で活動させる。 ②-2 自転車登校者への安全指導の強化を図る。 ③学年会等での情報交換と共有及び組織的支援の迅速な対応を図る。	①-1 部活動公式戦の結果以外の活動内容。 ①-2 部活動加入率。 ②-1 指導基準を明確化できたか。 ②-2 部活動における下校時刻厳守の状況把握と指導を行う。 ②-2 自転車事故件数、安全指導の回数。 ③情報把握、共有の機会を常に設定したか。	①-1 部活動生徒参加行事をHPで3回更新。 ①-2 部活動加入率66.9%。 ②-1 生徒指導基準を改訂した。 ②-2 19時完全下校が徹底された。 ②-2 自転車事故件数、13数件。安全指導3回。 ③ケース会議2回、欠席調査を4回実施した。	①-1 活動歴記録係を、設定し毎回HPに掲載できるように改善する。 ①-1 部活動と地域との協働活動を検討する。 ①-2 部活動仮入部期間の設定を検討する。 ②-1 指導の定着、細則の運用の検討する。指導記録を継続する。 ②-2 下校指導では十分成果があった。自転車安全指導については免許制、距離制の検討を継続する。 ③ケース会議を適切に開催する。	①-1 実力テストの活用と ②-2 下校指導のルールを生徒に周知し、守られるようになったことは評価できる。	①生徒の活動結果を定期的に集約し、発信する体制が整った。 ②下校指導について、ルールを生徒に周知し、守られるようになった。生活指導についても、全職員による指導体制づくりが課題である。 ③欠席数調査の情報共有の指標は効果的であった。今後も指導指針となるよう活用させたい。	①「部活動と地域との協働活動」を一つの指導とし、組織的に取組み、地域貢献部会との連携により、特色の一つとしていきたい。 ②③指導方針や指針の整備をうけ、指導の定着に向けた体制作りを行う必要がある。
①一般受験合格者数の増加に向け、組織的に進路指導を充実させる。	①-1 進路実現に組織的なデータ分析会と進路グループからの情報発信を行う。	①-1 実力テスト分析会実施回数及び説明会等の効果。	①-1 実力テスト分析会を2回実施した。	①-1 実力テストの活用。	①-1 実力テストの活用という点では、視点1の授業改善とのリンクさせると効果が期待できる。	①-1 実力テストを効果的に職員の進路指導に活用するには課題が残ったが、次年度より実力テスト結果を連動させGTEC導入をすることとした。	①-1 実力テスト結果の経年変化やデータ分析などを活用した、目標共有と組織的進路指導体制の確立。

1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	総合評価	
	具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	①-2 実力テストにかかる課題の整備と百合高塾の活用を図る。	①-2 課題提供状況と利用状況。	①-2 2年生全員2回課題を設定した。	①-2 実力判定ランクの目標設定をする。	①-2 進路指導と学習指導更に生徒指導の三者の相関性を意識した教育活動の充実そのための戦略プランを作成する必要がある。	①-2 進路指導における学習支援体制が未整備のままである。	①-2 夏期講習、自習室の活用など進路指導的学習支援計画の見直し。
①部活動を通じた社会参画意識の向上を図り、コミュニティ・スクールの意義を深める。 ②広報活動の充実を図る。	①部活動主体の社会貢献の推奨と表現活動の機会向上を図る。 ②-1 HP等の充実を図る。 ②-2 学校説明会の充実を図る。	①地域行事、学校行事への各部活動等の参加数。 ②-1 HPの更新状況。 ②-2 学校説明会、中学校訪問の回数、参加人数、改善状況。	①やまゆり観賞会2・スポーツセミナー18・ながさわにこここハーモニー2部活参加。 地域清掃を26部活で1ヶ月間実施した。 ②-1 3/1まで98回更新。 ②-2 学校説明会参加人数、第1回548人前年度比+86人、第2回487人+13人、第3回341人-103人。 中学校訪問数、春83校前年度比+5校、秋57校±0。	①部活動等での行事参加を促すことができた。 ②-1 引継ぎ等を考慮し、複数の教員で分担する。 ②-1 学校案内のデザインを検討する。 ②-2 学校説明会は効果的な実施時期を検討。中学校訪問は伝達内容を精選する。 近隣中学校との連携。生徒の中学校訪問を検討する。	①地域連携行事、地域清掃は評価できる。 ①校内清掃もきちんとさせてほしい。昇降口は荒んだ感じがする。	①行事への参加に加え、地域の雪かきを積極的に行うなど、地域貢献の意識醸成をすることができた。 ②HPを細かに更新し、充実を図った。グループからの掲載計画を明確化させ、定期的な更新を継続させた。また、学校説明会や中学校訪問など広報活動も堅実に目標を達成した。	①「部活動と地域との協働活動」を一つの指導とし、組織的に取り組み、地域貢献部会との連携により、特色の一つとしていきたい。(再掲) ②広報活動には一定の効果がみられる。今後も開催時期の検討や学校案内デザインの見直しなど、効果的な改善・工夫をしていく。

1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	総合評価	
	具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
<p>①啓発しあい、風通しのよい職場作りを行う。</p> <p>②実践に即した防災訓練を行う。</p>	<p>①-1 職員による事故防止会議を行う。</p> <p>①-2 入学者選抜業務、成績処理業務、文書管理等、事故防止を徹底する。</p> <p>①-3 自主点検、相互点検の強化を図る。</p> <p>②地域住民の避難を想定した防災訓練を行う。</p>	<p>①-1 職員による伝達講習会等、職員会議での総括教諭連絡の実施回数。</p> <p>①-2 業務の引継ぎ、点検システムはうまく稼動したか。</p> <p>①-3 修正状況は改善されたか。</p> <p>②避難訓練は改善されたか。</p>	<p>①-1 職員グループによる事故防止会議 10 回開催、総括教諭等の伝達講習 6 回実施。</p> <p>①-2 入選マニュアルの改訂、テスト返却方法・管理体制を改善し、事故防止に努めた。</p> <p>①-3 点検後の訂正は前期成績配付後、欠時数 12 件。</p> <p>②避難訓練 2 回実施。長沢地区防災訓練に参加した。</p>	<p>①-1 今年度目標を達成できた。</p> <p>①-2 各種業務の具体的な手順等を確実に記録し、次年度にスムーズに引き継ぐ。</p> <p>①-3 担当者の記載間違いがほとんどであった。</p> <p>②帰宅班ごとの帰宅想定訓練を実施した。職員の初動確認も今後課題である。</p>	<p>総じて年間の目標達成はできている。</p> <p>百合高の教育の特色生かすために視点 1 と視点 3 に傾斜的エネルギーの注入が必要。</p>	<p>①事故防止への職場全体の意識は高い。テスト期間中のシュレッター禁止やテスト返却方法改訂など主体的に改善案が出されたことは評価できる。</p> <p>②防災訓練については実践を想定し、大幅に改訂された。次年度は職員の初動も確認できるように改善する。</p>	<p>①今年度の取組みを定着させ、事故防止への意識を高く維持していく。また欠時数は授業時の記載が大切なので、さらなる注意喚起を継続していく。</p> <p>②今年度の反省点と職員の初動も想定・確認できるよう計画を立案する。</p>